

事前処理確認申請書記載例

(第1号様式) 受理番号

事前処理確認申請書

〇〇〇〇年〇月〇日 ①

一般財団法人 新日本検定協会 殿

申請者

住 所 横浜市中区 1-1-1
氏名又は名称 〇〇株式会社 ②
代 表 者 横浜支店長
氏 名 新検 太郎

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施行規則第12条の2の2第1項の規定により、次のとおり申請します。

船舶の概要	船舶番号	123456 ③	船 名	しんけんまる 新検丸 ④	
	総トン数	199 ⑤	航行区域	沿海 ⑥	
	国 籍	日本 ⑦			
事前処理の概要	有害液体物質	物質名	エピクロロヒドリン ⑧		
		性 状	融点-58℃、粘度12.5ミリパスカル秒(20℃)、比重1.1868(15/4℃)、微溶、取卸し温度約20℃ ⑨		
	積込地	水島 ⑩	取卸地	横浜 ⑪	
	貨物艙の数	6艙 ⑫	識別記号	1P、1S、2P、2S、3P、3S ⑬	
	事前処理の方法	予備洗浄方法 ⑭			
	実施日時	平成〇〇年〇月〇日 1000 ~ 1100 ⑮			
	実施場所	横浜港外 TK 錨地 ⑯			
洗 浄 方 法	洗浄機(固定式)により真水を用いて、1P、1S、2P、2S、3P、3Sの順に1サイクル洗浄する 1サイクルに要する時間10分 1サイクルに使用する真水0.9㎡ ⑰				
	洗浄水の処分の予定	自艙スロップタンク(P)に移送後、〇〇㈱水島工場の受入れ施設へ陸揚げ予定 ⑱			
当該貨物艙に初めて加えた水の処分の予定	施行令別表第1の8第1号で定める排出海域及び排出方法で処分予定 ⑲				
参 考 事 項	洗浄には洗剤は使用しない。 ⑳				

備 考

1. 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とすること。
2. 申請者の氏名又は名称及び住所並びに船名には、ふりがなを付すること。
3. 有害液体物質の性状は、その融点及び取卸しの温度20度における粘度が25ミリパスカル秒以上であるか否かの別を記載すること。
4. 事前処理の方法は、濃度測定方法(令別表第1の7第1号に掲げる要件に適合する方法をいう。)であるか、予備洗浄方法(同号に掲げる要件に適合する方法をいう。)であるかを記載すること。
5. 洗浄方法は、各貨物艙の洗浄順序、洗浄時間及び洗浄水使用量並びに濃度測定方法の場合にあってはホースを使用した手による洗浄であるか、機械による洗浄であるかを、予備洗浄方法の場合にあっては洗浄サイクル数及び洗浄水温度を記載すること。
6. 参考事項は、洗浄剤の使用の有無等事前の確認に参考となる事項を記載すること。

①	申請書年月日を記載して下さい。
②	住所、申請者の名称、代表者の氏名を記載して下さい。船舶代理人による代理申請も認められています。申請書への押印は省略いただけます。
③④⑤⑥⑦	船舶番号、船名、総トン数、航行区域及び国籍は、「船舶検査証」に記載されている内容を記載して下さい。
⑧	「品名」欄には、施行令別表第1号に掲名されている物質名を記載して下さい。物質名が長くて記載できない場合は、「別紙のとおり」と記載し、正しい政令物質名を記載した別紙を申請書の裏面に糊付けて下さい。
⑨	「性状」欄には、最低限、「融点」、「温度20度における粘度」及び「取卸しの際の温度」を記載して下さい。他船の洗浄水の場合には、「不詳」と記載して下さい。
⑩⑪	積込港名及び取卸港名を記載して下さい。
⑫⑬	事前処理を行う貨物艙の数とタンク番号を記載して下さい。
⑭	事前処理の方法は、濃度測定方法又は予備洗浄方法の別を記載して下さい。
⑮	事前処理の実施年月日、開始時間及び終了時間を記載して下さい。
⑯	事前処理を実施する場所を記載して下さい。
⑰	申請書の備考5に記載のとおり、次の事項を記載して下さい。 (1) 各貨物艙の洗浄順序 (2) 洗浄時間 (3) 洗浄水使用量 (4) ホースを使用した手による洗浄又は機械による洗浄の別(濃度測定方法の場合)、 (5) 洗浄サイクル数及び洗浄水温度(予備洗浄方法の場合)
⑱	例に習い洗浄水の処分の予定を記載して下さい。
⑲	当該貨物艙に初めて加えた水の処分方法は、施行令第1条の8第2項で規定されており、「施行令別表第1の8第1号で定める排出海域及び排出方法で処分予定」のように記載して下さい。
⑳	洗浄に洗浄剤を使用する場合は、その事実及び洗浄剤名を記載して下さい。